



# THE GRANPHONIC CONCERT 9th

グラナフォニック 第9回定期演奏会  
2009年9月23日  
愛知県芸術劇場コンサートホール

## ごあいさつ

本日は、お忙しい中、グランフォニック第9回定期演奏会に多数のご来場をいただき心よりお礼申し上げます。

私どもは、1年半を目途に定期演奏会を開催しております。今回は、第8回に続きまして『炎のマエストロ』小林研一郎先生を客演指揮としてお迎えしております。アマチュア合唱団としましては、このような機会にふたたび恵まれたことをとても嬉しく思っており、団員一同身の引き締まる思いでございます。

小林先生の音楽に注がれる溢れんばかりの情熱を少しでも吸収し、自らのものにしようと必死の思いで練習に邁進してまいりました。グランフォニックの成長に大いなる力となっていると確信しております。

さらには、総合演出を池山奈都子先生にお願いし、「レ・ミゼラブル」という長編作を、男声バージョンに仕上げていただきました。切れの良いご指導で、普段動きの緩やかな高齢者も若者に返った気分です。なお、わが団の最若手小嶋聰がグランフォニック用に編曲しております。

また、私どもの指揮者向川原慎一編曲による「男声合唱曲集 Tosti！」では、イタリアの情熱的なロマンスを歌いあげます。

オンリーワン合唱団を目指すグランフォニックの演奏会の開幕です。最後までお楽しみください。

グランフォニック団長

細江太喜雄



# ミュージカル 男たちのレ・ミゼラブル

作：クロード=ミッシェル・シェーンベルク

訳詞：岩谷時子

編曲：小嶋聰

1. プロローグ／囚人の歌
2. 一日の終わりに
3. 私は誰
4. 星よ
5. 宿屋の主人
6. 民衆の歌が聞こえるか
7. 一緒に飲もう
8. 彼を家に
9. ジャベールの自殺
10. 人影のない部屋
11. エピローグ

ジャン・バルジャン：鏑木勇樹

アンジョルラス：小嶋聰

テナルディエ：黒田泰男

指揮：向川原慎一

ピアノ：早瀬洋子

## 男声合唱曲集

### Tosti!

作曲：フランチェスコ・パオロ・トスティ

編曲：向川原慎一

1. La Serenata セレナータ 詞 G.A.チエザレオ
2. Tristezza 悲しみ 詞 R.マツツォーラ
3. Pensol! 僕は思っている 詞 R.E.バリアーラ
4. Addio! さようなら 詞 F.リッツエッティ
5. L'ultima canzone 最後の歌 詞 F.チムミーノ

指揮：向川原慎一

ピアノ：早瀬洋子

## 男声合唱組曲

### 水のいのち

作詩：高野喜久雄

作曲：高田三郎

1. 雨

2. 水たまり

3. 川

4. 海

5. 海よ

指揮：小林研一郎

ピアノ：早瀬洋子

## 男たちのレ・ミゼラブル ～熱き想い～

1980年にパリで産声を上げたミュージカル「レ・ミゼラブル」は、1985年、ロンドン公演にて改訂版が初演されると、そのストーリー性と壮大な音楽より瞬く間に世界的大ヒットミュージカルとなり、現在もなお、世界中で聴衆を魅了し続けている。原作は言うまでもなくヴィクトル＝マリー・ユゴー（1802～1885）の代表作、フランス文学史上屈指の名作と称される「Les Misérables」。

グランフォニックバージョンは、この銘作の中から男性が歌うナンバーに焦点をあて、フランスの激動の時代に生きた人間の熱き想いを歌いあげます。

貧困に耐えきれずたった一つのパンを盗んだジャン・バルジャンは、強盗、脱獄の罪により19年の投獄生活を送る。

### …………… [プロローグ／囚人の歌]

仮釈放されたバルジャンへ向けられる視線は冷たく、懷疑で満ちてしまった心が温かく迎えてくれたはずの司教の銀の食器に手をつけ、再び捕らえられてしまう。しかし、司教は彼を弁護し、そのうえ銀の燭台を与えバルジャンの魂を正しい道へと導く。

8年後、マドレーヌと名を変えたバルジャンは、模造宝石工場の経営者になり、その人柄と人望から市長という地位を得る。

その頃、一人娘コゼットの養育費を稼ぐため彼の工場で必死に働いていたファンティーヌは、喧嘩騒ぎによって工場を追い出されてしまう。…………… [一日の終わりに]

一方、ジャベール警部は仮釈放の身で行方をくらましたバルジャンを追い続けていた。ジャベールの口から、自分と間違われて捕われた男がいることを知ったバルジャンは、葛藤の末その男を救うため、法廷で囚人番号24653、と身を明かす。…………… [私は誰]

しかし、死の床についたファンティーヌからコゼットの将来を託されたバルジャンは、約束を果たすため再び姿を消す。ジャベールは、民を欺き国家を裏切ったバルジャンをなんとしてでも捕えることを誓う。… [星よ]

テナルディエ夫妻の宿屋に預けられている

幼いコゼットは、この夫婦に奴隸のように使われ、虐待を受けていた。… [宿屋の主人]

バルジャンはテナルディエ夫妻の要求通り大金を払い、コゼットを引き取り、パリへ逃亡する。

10年後、パリのABCカフェではアンジョルラスをリーダーとする学生が集まり、これから起こる革命に備えていた。そんな中、美しく成長したコゼットに一目惚れをしたマリウス、そしてコゼットもマリウスに惹かれ、互いを深く愛し合うようになる。そこへラマルク将軍の死が知らされ、学生たちは決起する。…………… [民衆の歌が聞こえるか]

政府軍と戦うために築いたバリケード。そこへ、軍のスパイとなったジャベールが現れるが、正体を見破られ学生達に捕えられる。バルジャンはコゼットの恋人マリウスを救うため、志願兵としてバリケードを訪れる。政府軍の最初の攻撃をしのぎ、バルジャンはジャベールの処分を買って出る。そして、一任されたバルジャンは彼を逃がす。戦い終えた学生たちは、友を想い、親しき者を想い、共に夜を明かす。…………… [一緒に飲もう]

束の間の安らぎのとき、バルジャンはマリウスを自らの息子のように想い、彼の無事を自分の命と引き替えにしてでも救いたい、と神に祈る。…………… [彼を家に]

夜明けとともに始まった銃撃戦でアンジョルラスを含め次々と死んでいく学生たち。重傷のマリウスを背負い逃れるバルジャンは、目の前に立ち塞がったジャベールにマリウスを救うため猶予を請う。その申し出を承諾したジャベールは、自らの鉄の正義と信念が崩れ去ったことを悟り、セーヌ河に身を投じ自殺する。…………… [ジャベールの自殺]

生き残ったマリウスは、共に戦い命を落とした仲間たちを想っていた。

### …………… [人影のない部屋]

再び巡り合ったマリウスとコゼットは、命の恩人がバルジャンと知り、息を引き取る寸前に駆けつける。バルジャンは告白の手紙をコゼットに渡し、死んでいったファンティーヌや学生達の想いによって導かれ、神のもとに旅立っていった。

### …………… [エピローグ]

## 美しくも微苦のTosti!

作曲者フランチェスコ・パオロ・トステイは、1846年4月9日、商人の両親のもと、イタリアのオルトーナ・スル・マーレというところに生まれました。11歳の時、王室と内務省の推薦を得てナポリのサン・ピエトロ・マイエラ王立音楽学校でヴァイオリン、作曲を学びます。1866年卒業、直ちに母校の助教授に迎えられるのですが、健康を損ね故郷で作曲に専念。また、ローマへ行き、声楽教師の傍ら作品を発表。これが認められてサヴォイ公女マルゲリータの声楽教師に招かれます。

そして同じ頃のイギリスでの成功を機に、1880年にヴィクトリア女王のもとで英国王室付音楽教師としてロンドンへ住居を移します。1908年、長年の英國樂壇への貢献に対して、時の国王エドワード7世によって男爵に叙せられ、1913年には30余年に渡る英國滞在に終止符を打ちイタリアへ帰国。1916年12月2日、ローマにて70歳の生涯を終えました。

トステイの歌曲は、近代イタリアが生んだ声楽芸術の精華と言えましょう。その頃のイタリアで、作曲といえばオペラを書くとされていたこの時代に、400にも及ぶイタリア語、英語、フランス語による美しい歌を残し、民謡ばかりで歌曲が育たなかった当時にあって、美しい旋律を芸術歌曲の水準にまで引き上げた彼の功績は計り知れないものです。

トステイ自身声楽家として出発しただけに、声をいかに美しく出すかという点に特に注意を払いながら、美しい旋律を書いたのです。その流麗な旋律に対応する、柔軟で平明なハーモニー、抒情詩の感情をそのまま歌い出したような直截な表現は、現代にあってもなお、音楽愛好家、声楽を学ぶ者を魅了して止まないのです。

定期演奏会のプログラム編集長から、数あるトステイの歌曲からどうして今回の5曲を選んだのですか、とのお尋ねがありました。それはこうです。

### 1) 恋人が欲しい。若者が恋人の窓辺で歌う [セレナータ]

陽気にギターをかき鳴らしながら。僕のセレナータ、愛しい人のもとへ飛んでいっておくれ。あの娘は美しい寝顔でベッドに横たわる。ああ、セレナータ、愛しい人のもとへ飛んでいっておくれ。僕のセレナータ、飛んでいけ。愛しい人はひとり笑みをたたえてまどろんでいる。波が砂浜で夢を見ている。風だって小枝の上で夢見る。なのにブロンド髪の愛しい人は僕の口づけを拒んでいる。僕のセレナータ、飛んでいけ、愛しい人のもとへ。

### 2) 素敵な恋人をゲットしたというのに、 もう [悲しみ] の予感

太陽が波間に沈み、鳥たちはねぐらへと急ぐ。なぜか解らないけど僕は憂鬱な気分になる。きみの瞳を見つめながら、ああ愛しい人よ、僕は黙ってきみに身を寄せるのだ。夕べの闇が空を、海を、そしてあらゆるもの包む。僕の目には涙があふれる。アヴェ・マリアの鐘が鳴っている。なぜかは解らない、この悲しみは。愛しい人よ、きみは敬虔に祈る。僕も共に祈ろう。輝きに満ちた穏やかな夕べ、僕たちの愛する心は祈りを捧げる。なのに、なぜか解らない、憂鬱な気持ちが僕から離れない。いつの日か、僕の人生は、夢を、そしてきみを失うことになるのだろう。

### 3) 悲しみの予感を振り払おう、ボレロ風の リズムに乗って。僕は君が初めてその優しい眼差しを向けてくれた時を思っている。

#### [ペンソ：僕は思っている]

高らかに歌おう。僕の心に目覚めたあの希望を、あの魅惑を思っているのだと。でも、君はあれは夢だったと言う。あの至福のときのようにきみはもう僕を見ることはない。

## 4) そして【さようなら】

喜びに満ちたあの夏の日が去り、破局が近い。でもそうあって欲しくない。木の葉は散り海には白波が立ち、大気は霧に覆われる。陽の光は冷え、ツバメは巣立ち南国へと渡る。夏よさらば。彼方からの声が言う、聞きなさいそしてよく知りなさい。明日と今日、喜びと苦しみ、幸せと不幸、これらはそれぞれ同じものだということを。忘却が苦しみを、そして喜びをも覆い隠す。ああ、希望よさらば。愛しい人よ、一度だけの口づけをしておくれ、それからきみは立ち去るのだ。でももう一度、もう一度だけ。僕はきみから永遠の誠の証が欲しい。というのもきみの心は私のものになる運命だから。永遠にさらば、永遠に。

## 5) 【最後の歌】

若者はとうとう甲斐無きセレナーデ（ヨリを戻してくれ、もう一度こっちを向いてくれと元カノに訴える歌）を歌うハメに。ニーナ、きみは明日あいつの花嫁になるそうだね。でも僕はもう一度あのセレナータを歌うよ。静かな野原や緑濃き谷で、何度あの歌を歌つたことか。薔薇の花びらよ、たとえきみが嫁いでも、僕はいつもきみのそばに居るよ。明日、きみは婚礼の宴。たくさんの人々のほほえみと花に囲まれ、昔の愛なんか忘れてしまっているだろう。でも、僕の歌は嘆き悲しみながらも昼となく、夜となくきみの元へ届くだろうよ。ミントの花よ、ニーナ思い出しておくれ、きみに捧げたあの口づけを。

グランフォニック社員の誰かが（誰もが）曾て味わった苦い思い出が本日のプログラムの物語構成だと思うのは筆者の勝手な想像でしょうか。



## 水のいのち (ないしょ、ないしょ版)

慶應ワグネルを昭和49年に卒業された、原久夫さんからこんな話をうかがった。

当時は六連を畠中良輔先生、四連を木下保先生が指揮しておられた。夏合宿からは新入生も交え、12月の定期演奏会で新たな曲を発表する。その年の定演で発表する木下先生の曲が高田三郎作曲の「水のいのち」でした。

昭和48年7月、私は3年の指揮者であるH君と上高井戸のご自宅に高田先生をお訪ねしました。同志社のクローバークラブが歌ったものを木下先生の指揮で歌いたいと申し出ると、「それを手直ししたものがあるからそちらをうたってほしい」と言われた。H君が「クローバー版を既に（夏合宿用に）印刷に回したのですが・・・」と言うと、先生は「ここから電話して、今すぐストップさせなさい」とおっしゃるので、かならずかならず正誤表で訂正した改訂版で演奏しますとお約束した。また、先生は「混声、男声、女声がみんな一緒に歌っても歌えるようにしています」とおっしゃっていた。私は「へー、すごーい」と思ったものです。H君が「セカンドテナーの動きが混声版のテノールと違いますね」と言ったら、高田先生は目を光らせ、「楽譜を見ないで何小節目か言いなさい」と言われた。H君がそこを指摘したら、先生は数秒考えた後、「訂正しましょう」と言われた。これらの手直しを全て含んで昭和49年5月にカワイ楽譜から男声合唱版「水のいのち」が市販されました。

「水のいのち」はTBS放送局の委嘱により、1964年（昭和39年）11月10日、合唱・日本合唱協会、ピアノ・川村深雪、指揮・山田和男によって放送初演された。

丁度その頃、高田は偶然眼にした雑誌に載った旧知の詩人、高野喜久雄の詩集「独楽」の中の《海》を合唱曲に書き上げていた。そこへTBSの企画が持ち込まれ、高野の詩集「存在」から、すでに狙いをつけていた《水たまり》と《川》を、読む詩から聞いて解る詩に直してもらうよう、詩人に頼んだ。この作曲を終えたのち、第1曲《雨》を、そ

して終曲のための長い詩《海よ》の詩を書いてもらい、それに作曲する、という手順で組曲全体が出来上がった。

〔雨〕 すべて立ちすくむもの、横たわるもの、許し合い、許し合えぬ人々の上に恵みの雨よ、との願いを込めて祈る。

〔水たまり〕 水たまりに過ぎない私たちの深さ。しかしその水たまりが青い空を小さい水面に映しているのに気づき、私たちの小さな心もまた、と思う。

〔川〕 よどむ淵も、渦もいらだっている。川が焦がれるのは山であり、切り立つ峰であり、その彼方にある青空。

〔海〕 見なさい、これを見なさいと言い続けるハミングの大波小波。大海からの人への問いかけ。

〔海よ〕 すべてを受け容れる海。その中であこや貝、海星、マリンスノーの立ち昇り。空の高みへの始まり、水の魂が天へ昇る。また雨と降らんがために・・・。

作曲者は言う。《水のいのち》を、これらの楽章の配列から、「水の一生」と考える人が多いようである。英訳すれば “The Life of Water” である。しかし、私はこの題の本当の訳は “The Soul of Water” と思っている。“Soul” すなわち「魂」とは、「それがあれば生きているが、それを失えば死んでしまうもの」なのである。

初演の2日後、カワイ楽譜からの手紙で楽譜出版の段取りがなされ、数年のうちに演奏会のプログラムに、またコンクールの自由曲に。また、作曲者の手による女声版、男声版もでき、さらには宇野功芳氏の評論の力もあり、今や日本のクラシック音楽の名曲となりつつある。

**小林 研一郎 指揮**  
Ken-ichiro Kobayashi



東京藝術大学作曲科、指揮科の両科を卒業。作曲を石井眞礼生、指揮を渡邊暁雄、山田一雄の各氏に師事。1974年第1回ブダペスト国際指揮者コンクール第1位、特別賞を受賞。

"プラハの春"、"アテネ"、"ルツエルン・フェスティヴァル"等、多くの音楽祭に出演。また、ヨーロッパの一流オーケストラを多数指揮。ハンガリー国立響及びネザーランド・フィルのヨーロッパ、日本公演や、東京都響、読売日響、日本フィルのヨーロッパ公演の指揮者、国際指揮者コンクール審査員、都響正指揮者、東響客演指揮者、京都市響常任指揮者、ハンガリー国立響音楽総監督・常任指揮者、チェコ・フィル常任客演指揮者、日本フィル音楽監督などを歴任。

ハンガリー政府よりリスト記念勲章、ハンガリー文化勲章、星付中十字勲章（民間人としては最高の勲章）を授与される。

現在、アーネム・フィル常任指揮者、ハンガリー国立フィル、名古屋フィル桂冠指揮者、マタヴィ・ハンガリー交響楽団、九響の首席客演、東京藝術大学名誉教授、東京音楽大学客員教授。

ポニーキャニオン、オクタヴィアレコードの両社から数多くのCD、DVDが発売されている。著書にエッセイ集「指揮者のひとりごと」（日本図書協会選定図書）。また、2000年の日蘭交流400周年の作曲を委嘱され、両国をモチーフにした管弦楽曲「パッサカリア」を作曲（CDはオクタヴィアから）。ネザーランド・フィルにて初演され、4日間にわたり満員の聴衆の熱狂的スタンディング・オベーションで迎えられた。

2002年5月の「プラハの春音楽祭」オープニングコンサートの指揮者として、東洋人では初めて起用され、大統領臨席のもと「我が祖国」全曲がチェコ・フィルにて演奏され、スマタナホール満場の聴衆からのスタンディング・オベーションが長く続いた。また、コンサートの模様は全世界に向け同時放送され、日本人初の快挙として国内外の数多くのメディアに紹介された（同公演の

DVDはコロムビアミュージックより発売中）。

2003年6月にはハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団を率いての日本公演を指揮、同年9月には10数年ぶりにオペラに登場、ブッchner「蝶々夫人」（二期会公演）、2005年6月にはマリンスキ歌劇場フィルハーモニー管弦楽団との日本公演、2006年5月には日本フィルの創立50周年記念ヨーロッパ公演、2007年2-3月にはオランダのアーネム・フィルハーモニー管弦楽団（オランダ）との日本ツアーを指揮し、好評を博した。国内外のオーケストラへの客演も数多く、現在最も活躍し注目されている指揮者である。

オフィシャルウェブサイト <http://www.it-japan.co.jp/kobaken>

**池山 奈都子 総合演出**

Natsuko Ikeyama



名古屋音楽大学声楽学部卒業。

名古屋二期会、名古屋オペラ協会、名古屋市文化振興事業団などのオペラ・ミュージカル公演において数多くの演出家の助手を務める。東京・神戸・広島・札幌・福岡などのオペラ公演にも演出スタッフとして関わり全国へと広がっている。

また、サンフランシスコオペラセンター（名古屋国際音楽祭）、ローマ歌劇場日本公演、マカオ国際音楽祭にも演出助手として参加。「オルフェオ」（大阪・静岡公演）で演出家デビュー。

「海の子守唄」「墮ちたる天女」「香妃」「カルメン」「愛の妙薬」「マクベス」「アイーダ」「椿姫」「ラ・ボエーム」「こうもり」「ドン・ジョバンニ」「ヘンゼルとグレーテル」「道化師」「カヴァレリア・ルスティカーナ」「ナブッコ」「フィガロの結婚」「ねこはしる」、創作オペレッタ「水神」などのオペラや創作オペラ、ミュージカルなどの演出をはじめ、コンサート（ニューオペラ・コンサート、オペラの魅力など）、リサイタル、合唱団の公演の演出も手掛けている。

愛知県立芸術大学非常勤講師。



**向川原 慎一 指揮**  
Mukaigawara Shin-ichi

**鎌木 勇樹 テノール**  
Kaburagi Yuuki



テノール。千葉県出身。  
愛知県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業。同大学院修了。

石津憲一、曾我淑人、神田詩朗、西義一の各氏に師事。

「フィガロの結婚」のバジリオ役にてオペラデビュー。その後、「子供と魔法」「ジャンニ・スキッキ」「ピーターグライムズ」「ねじの回転」「魔笛」「こうもり」「メリーウィドウ」「真夏の夜の夢」「トスカ」「トロヴァトーレ」「カルメン」「伯爵令嬢マリッツァ」など、多数のオペラ、オペレッタに出演。

また日本のオペラ作品では「夕鶴」「額田王」「祝い歌が流れる夜に」「浅茅ヶ宿」「鏡の森の物語」「琵琶白菊物語」「天守物語」「じゅごんの子守唄」「三人の女達の物語」等に出演。  
その他「ピーターと狼」「兵士の物語」等のオーケストラ作品のナレーターや宗教曲や第九のソリストを務める。

現在、同朋高等学校音楽科教諭。岡崎第九を歌う会合唱指揮者。合唱団となみ常任指揮者。名古屋オペラ協会運営副委員長。

早稲田大学第一政治経済学部卒業。

長年にわたり合唱指揮・指導を行い、現在も男声合唱団グランフォニックをはじめとしていくつかの団体の指揮者を務める。

そのかたわら、歌曲を中心とした作曲活動を続け、2007年の奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門（中田喜直賞の部）では2曲が本選に進み、優秀賞と入選を得た。

また合唱編曲ではカワイ楽譜から「混声合唱のための5つのトスティー歌曲」と「ドボルジャークのジブシーの歌」が出版されている。

小林研一郎氏に師事。



**早瀬 洋子 ピアノ**  
Hayase Yoko

愛知教育大学音楽科、同大学院修了。

学生時代より、名古屋二期会、名古屋オペラ協会、名古屋市文化振興事業団、愛知県文化振興事業団、三重オペラ協会、岐阜県産業文化振興事業団、名古屋芸術大学、長久手オペラレクチャーコンサートなどで多数のオペラ、オペレッタ、ミュージカルの稽古ピアニスト、コレペティトゥア、ピアノ公演ピアニストを務める。

栗原一身氏、平尾はるな氏、山崎晴代氏、三浦洋一氏、ジャンニ・クリスチャック氏らに師事。

伴奏ピアニストとして活動する傍らコーラス指導も手がける。また名古屋芸術大学では長年にわたり、オペラの授業助手を担当している。

## グラソニック

早いもので、「グラソニック」が誕生してから足掛け15年の月日が流れました。働き盛りの壮年だった創設時のメンバーも、今や後期高齢者の仲間入り。でも、歌い続けることが何よりのアンチエイジングなのか、今日も元気にステージに立ちます。そんなますます意気軒高なおじやま・おじやま達に引っ張られ、この15年の間にメンバーも増え続けて今や約60名の大所帯になりました。20歳代から70歳代まで、仕事も故郷も体型も髪の毛の量もバラバラの私たちですが、歌うことが大好きという点では全員一致。週一回の定期練習と、月一回の特別練習をベースに、いろいろな活動をしてまいりました。

その集大成が何といっても定期演奏会。今回で

9回目となりますが、一貫してメンバー自身によるオリジナル作品や編曲作品を取り上げてきました。そして、ドイツ語を主とした外国語や、演技や踊り(?)付きのステージにも力を入れてきました。今回も、メンバーが編曲した「レ・ミゼラブル」ではちょっとした「動き」をご披露いたしますし、「トスティ歌曲集」では初めてイタリア語に挑戦します。さほど多くない練習時間の中で、暗譜のみならず動きを覚えるのはなかなか大変ですが、しっかりとした男声合唱で「聴かせる」ことと、楽しいステージを「お見せする」ことは、私たちの基本コンセプトでありこれからも大切にしていきます。

また更なるレベルアップを目指して、第7回の定期演奏会では畠中良輔先生、第8回には小林研一郎先生を客演指揮者にお迎えし、厳しい中にも



T1	T2	B1
浅井 裕之	池田 祐一	飯田 公男
伊藤 高潤	鹿住 誠	伊東 健光
片田 保彦	神谷 立正	大浦 亮一
黒岩 実	小林 武	小林 信夫
佐々木正義	鈴木 英孝	柴田 道昭
田中 良夫	常川 浩	根木 和彦
成田 正人	早矢仕英史	間瀬 譲
藤田 東一	三ツ松 平	松浦 治徳
向川原慎一		森重 雅夫
		三ツ口勝弥

音楽性あふれるご指導を仰いだことで、確実に歩を進めることができました。今回も前回に引き続き、小林研一郎先生にご指導を仰ぐ幸運に恵まれ、次の「高み」へ上り行けるよう練習を積み重ねてまいりました。

この日を心待ちにしてくださった「ごく少数」のグラマニアの皆様、家族親族同僚ご近所等々の関係者の皆様、チケットもらっちゃったのでなんとなく来てしまった皆様。それぞれ足をお運びいただいた事情はございましょうが、私たちの「マニフェスト」とも言うべき「歌を通じて生きる喜びを伝える」ことができるよう、心を込めて歌わせていただきます。

これからも「グランフォニック」を御観賞賜りますよう何卒よろしくお願ひいたします。



B<sup>2</sup>

浅井 良之	浅野憲一郎
石川 聰	犬塚 弘道
井ノ口貴敏	小嶋 聰
鈴木 秀樹	外村 俊夫
富田 敏夫	成井 詔彦
福澤 慶太	藤山 祐司
間瀬 裕士	松原 成憲
村井 襄介	

## グランフォニック 第9回定期演奏会

総合演出	池山 奈都子
ステージマネージャー	磯田 有香
照明	曾我 裕幸

スタッフ	
団長	細江 太喜雄
幹事長	間瀬 讓
副幹事長	伊藤 慎二
財務部長	常川 浩

パートマネージャー	
(T 1)	小林 武
(T 2)	小林 信夫
	中村 嘉夫
(B 1)	芝木 昌一
(B 2)	犬塚 弘道

音楽スタッフ	
指揮者	向川原 憲一
副指揮者	神田 久嗣
コンサートマスター	田中 良夫
楽典長	伊東 健光
クリエイティブ委員長	藤田 東一
クリエイティブ委員	小嶋 聰
パートリーダー	

(T 1)	藤田 東一 (兼)
(T 2)	伊東 健光 (兼)
(B 1)	神田 久嗣 (兼)
(B 2)	浅井 良之

連絡先	間瀬 讓
080-6943-1814	
Email:wajimase1814@ezweb.ne.jp	

THE グランフォニック 第9回定期演奏会  
GRANPHONIC CONCERT 9th

、グランフォニック 第9回定期演奏会  
客演指揮に小林研一郎氏をお迎えして…

# THE GRANPHONIC CONCERT 9th



男声合唱組曲

## 水のいのち

作詩：高野喜久雄 作曲：高田三郎

客演指揮：小林研一郎



ミュージカル

## レ・ミゼラブルより

作：クロード=ミッシェル・シェーンベルク

訳詞：岩谷時子 編曲：小嶋聰

テノール：鎌木勇樹 指揮：向川原慎一



男声合唱曲集

## Tosti !

作曲：フランチェスコ・パオロ・トスティ

編曲／指揮：向川原慎一

総合演出：池山奈都子 ピアノ：早瀬洋子

2009  
9.23

(水)  
祝

4:00pm開演(3:30pm開場) 愛知県芸術劇場コンサートホール

指定席：2,500円 自由席：2,000円

お問い合わせ：間瀬 tel: 080-6943-1814

THE GRANPHONIC : <http://www.granphonic.com>